

平成 28 年度 第 2 回学校評議員会 報告

1 出席者

- (1) 学校評議員 NPOくらしえん・しごとえん代表理事
天竜厚生会障がい者支援事業部長
- (2) 本校 校長 事務長 副校長 高等部主事

2 日 時 平成 28 年 12 月 13 日 (火) 13:30～15:00

3 内 容

- (1) 校長挨拶
- (2) 校内見学 (高等部「実習報告会」参観)
- (3) 高等部の現状と課題について(高等部主事)
- (4) 意見交換 テーマ「高等部の教育と進路指導」

4 御意見等

<実習・体験等について>

- ・生徒のボランティア活動を受け入れたが、どの子も真面目で、じき状況になれ活発に活動できていた。コミュニケーションに課題のある生徒が多いということだが、高齢者や障害者など多様な関わりが体験できる。今後も積極的に受け入れるので活用してほしい
- ・企業のトップは障害者雇用に積極的でも、組織としての体制ができておらず現場はどう対応していいか困っている例は多い。だからこそ実習や体験は大切。天特生は能力は高いがコミュニケーションなど他の問題があるので、ボランティア体験の活用など、独自の実習のあり方を検討することも必要かもしれない。
- ・実習について、時系列で個々の取組内容やそのときの進路希望、出された課題、卒業後どうなったか、などを継続的に追っていき、この人ならA型が良い、この人は一般就労、などと分析できると参考になる。
- ・実習の際のサポートとしては、雇用事業主に対して実習の受入や実習をどう組み立てればいいのかなどをサポートする浜松市の事業が利用できる。

<情報の共有について>

- ・雇用現場では所有する手帳が強く意識されがちで、発達障害なのに「療育手帳だから知的障害」「精神手帳だから精神疾患」等と認識され、誤ったアプローチ・支援がなされてしまう場合がある。とくに発達障害をベースにしている場合には、本人のアセスメント、情報提供がどれだけきちんと行われるかが重要。そのためには情報

をちゃんと先方に伝えることが本人にとってメリットになるということをまず送り出し側（保護者や支援機関）に理解してもらう必要がある。

- ・訓練施設や就労移行支援事業所の一部では担当者が頻繁に変わる場合がある。情報がプツンと切れてしまわないよう、学校も協力して確実に伝えていくことが大切。「つなぐ」という視点で学校の役割分担を考えたい。

<雇用の現状と定着のために>

- ・就労後、朝がしんどい、昼休みがうるさくて嫌だなど、言訳やわがままが次々出てきやすい。勤務時間を1時間ずらす、一人になれる場所を作るなどして、言訳を全部つぶしていけば仕事に行かない理由はなくなり、最後は本当に本人が働きたいかが突きつけられる。
- ・うまくいっている卒業生の事例では何かあればすぐ面談をしている。最初の頃はささいなことで悩んで会社に行けなくなったが、すりあわせを丁寧にやることで逞しくなってきた。
- ・うまくいかなかった事例では、なぜうまくいかなかったのか、学校や就労支援センターなどが集まってケース会議のようなものができるとうまい。
- ・問題は起きて当たり前、その時に関係者が集まり支援を話し合うことで、会社も外部の人に関わってもらうとうまく行くという経験を繰り返していくことが大切。
- ・うまくいかないとすぐ過去の嫌な思い出に戻りがちだが、それよりたくさんの成功経験を新しい場所で作るようにしたい。在学中にうまくいった経験や、こういうアプローチをしてあげるとずっと心が楽になるというような落としどころのようなものを伝えていけると役立つ。
- ・一人の生徒さんにいろんな人が関わらなければいけないと感じる。そんな存在が地域にできて、我々が体調が悪くなったら病院に行くように、必要なときだけ自分でその中からチョイスする。最後はどんどん手を引いて、または別の手になっていき、ジョブコーチはいらなくなるようにするのが理想。
- ・就職は単に自分の夢をかなえる、自分のほしいものを手に入れるというのではなく、最後は社会の一員として福祉の必要な人たちを支える側になってほしいと思う。

<その他>

- ・進路先の定着状況の資料(本校作成)についてデータの取り方や分析があいまいである。貴重な資料なので有効に活用できるようにしたい。
- ・平成30年度から職場定着事業が始まる。職場に一定期間定着していれば助成金が支払われるが、詳細はまだ決まっていない。